

D P	C P	1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		<p>A-2 現代社会とそこに至る過去を踏まえ、現代社会の実情を把握し、それと関連する法律やその基礎的な概念および理論を適切に認識することができる。</p> <p>法学全体の基礎およびその骨幹をなす現代社会の実情を把握、認識する導入科目を1年次に配置し、それを前提として法学の中核となる専門的知識を理解するための基本科目を1～2年次に配置する。</p>	<p>基礎演習 法律学習の基礎 マクロ経済学I</p> <p>法学概論 憲法I(総論・統治機構) 民法(総論) ミクロ経済学I</p> <p>憲法II(基本的人権) 刑法I(総論) 民法(契約法) 民法(親族・相続) 会社法I(企業組織法) 国際法 政治学原論I 世界経済論 日本史A 外国史A ヨーロッパ史A 人文地理学A 自然地理学A 地誌学A 現代哲学思想A 宗教学A</p>	<p>憲法II(各論) 刑法II(各論) 民法(物権) 民法(債権総論) 民法(不法行為等) 会社法II(企業金融法) 国際経済学 日本史B 外国史B ヨーロッパ史B 人文地理学B 自然地理学B 地誌学B 現代哲学思想B 宗教学B</p>	<p>西洋経済史 日本経済論 日本経済史</p>				
<p>A-3 現代社会とそこに至る過去を踏まえ、現代社会の実情を把握し、それと関連する法律やその基礎的な概念および理論を適切に認識することができる。</p>	<p>Problem Solving Skills for Global Issues</p>	<p>民事手続法I(判決手続) 日本文化史A 中国・アジア文化史A ヨーロッパ・地中海文化史A アメリカ・太平洋文化史A 表象文化史A 芸術文化史A</p>	<p>刑事手続法(刑事訴訟法) 政治学原論II 保険史 日本文化史B 中国・アジア文化史B ヨーロッパ・地中海文化史B アメリカ・太平洋文化史B 表象文化史B 芸術文化史B</p>						
<p>B-2 法学のより高度な概念および理論を現代社会の実情に適用・応用する過程およびその結果を明確に提示することができる。</p> <p>法学の高度な知識を修得し、それを用いた法的思考、法的解釈を提示するための基本科目および専門演習(演習・実務関連科目)を2年次以降に配置し、国内外の社会の実情を理解し、法的思考、法的解釈を要する視点から比較する際の国際関係法・政治学科目を2年次から配置する。</p>	<p>国際ビジネスの法と交渉 雇用関係法I 企業取引法I(商法総則) 国際私法I(総論・家縁法) 国際人権法 政治理論 政治史I 地域研究I</p>	<p>行政法総論 雇用関係法II 企業取引法II(商取引法) 民事手続法II(民事執行・保全法) 国際取引法 政治史II 日本政治論 海洋法</p>	<p>労働関係法 租税法 社会保障法 刑事政策 特別刑法 金融法I(企業決済法) 国際民事手続法 政治思想史 行政学</p>	<p>企業取引法III(保険法・海商法) 金融法II(金融商品取引法) 法哲学II 法社会学I 地方自治論 国際私法II(財産法)</p>					
<p>B-3 法学の概念および理論を幅広く学び、それらを現代社会の実情に適用・応用するための、複数の視点から比較検討することができる。</p>		<p>International Law 国際政治学 マクロ経済学II ミクロ経済学II</p>	<p>行政経済法 法哲学I 法制史I 国際組織法 財政学 国際金融論</p>	<p>地方自治と法 租税手続法 法制史II 法社会学II 国際商事仲裁</p>					
<p>C-2 実習する国内外や現代社会の諸現象に関する課題を理解し、自らその解決にむけて法学の概念および理論のみにとらわれない広い視野と批判的見地から検討することができる。</p> <p>法学の概念・理論を前提として、2～4年に国内の先進的な法的問題を理解、解決する方途を身につける発展科目および専門演習(演習・実務関連科目)を配置し、この問題の理解・解決を種々の法制度や政治など幅広い見地から行うための国際関係法・政治学科目を2年次以降に配置する。</p>		<p>知的財産法(概論) 国際環境法 国際協力論 地域研究II</p>	<p>Advanced International Law 国際関係史 地域研究III EU法 現代政治思想</p>	<p>国際経済法 少年法 民事手続法II(遺産処理法) 知的財産法(応用) 宇宙法</p>					
<p>C-3 実習する国内外や現代社会の諸現象の課題を解決するため、あるべき社会を築いて新たな秩序を形成することへ、法学のみにとらわれない広い視野から能動的に参画することができる。</p>		<p>経済法 社会科学総合講座 外国法政I 外国法政II</p>	<p>比較政治学 外国法政III 外国法政IV 国際関係論 専門演習I</p>	<p>専門演習II 専門演習II</p>					
<p>D-2 人権意識、道徳意識と倫理観を醸成し、公平・公正な視点から社会における多様性を受容し、現代社会の諸現象に敏感に反応するための成熟した資質を身に付け、行動することができる。</p> <p>法学の概念および理論の社会における運用(実務など)を知るための応用法学および実務科目(演習・実務関連科目)を配置し、さらに、実務という社会現象に多様性を理解したうえで応じる成熟した資質を醸成する課題をいかに社会と積極的に関わる力を身につけるための外国語に関する科目を配置する。</p>	<p>英書講読I 英書講読II</p>	<p>表現技法の基礎 行政実務から見た法学 ※応用法律学(憲法) ※応用法律学(刑法) ※応用法律学(商法) インクォン・エンパワ・ワー・ヒューマンズ</p>	<p>ビジネス実務から見た法学 ※応用法律学(民法) ※応用法律学(行政法) ※応用法律学(刑事訴訟法) ※応用法律学(民事訴訟法)</p>						
<p>D-3 地域社会や国際社会を基礎づける多様な多様な価値観に基づき、独立した個人として、自ら選んで学ぶ高い意欲を身に付け、適切にかつ積極的に市民社会を担うことができる。</p>		<p>専門外国語IA 専門外国語IIA 専門外国語IIIA</p>	<p>専門外国語IB 専門外国語IIB 専門外国語IIB</p>	<p>特別専門演習</p>					